

松山北高等学校図書館だより

いずみ

令和2年度 第2号
発行 7月 1日
図書委員会
2年1組 図書委員

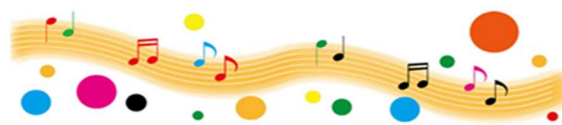


中間考査が終わり、少し学校生活にも余裕がでてきたところではないでしょうか。マスク生活が続く中ではありますが、着実に、梅雨から夏へと季節は移り、夏休みも近づいてきます。

さて、1,2年生は、夏休み課題の1つに読書感想文があります。この機会にじっくりと本を選び、ゆっくりと読んで、読書感想文に取り組んでみましょう。3年生も進路に関する新書が揃っていますから、ぜひ、図書館を利用してください。月～金の5時まで開館していて、一人2冊の本を2週間借りられます。

【2020年度青少年読書感想文課題図書】

「廉太郎ノオト」 著：谷津 矢車



廉太郎の頭のなかには、いつも鳴り響いている音があった…。最愛の姉の死、厳格な父との対立、東京音楽学校での厳しい競争、孤高の天才少女との出会い、旋律を奏でることをためらう右手の秘密。

若き音楽家・瀧廉太郎は、恩師や友人に支えられながら、数々の試練を乗り越え、作曲家としての才能を開花させていく。そして、新しい時代の音楽を夢みてドイツ・ライプツィヒへと旅立つが…。「西洋音楽不毛の地」に種を植えるべく短い命を燃やした一人の天才の軌跡を描き出す。

「フラミンゴ ボーイ」 著：モーパール、マイケル

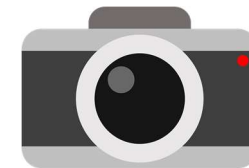


一人のイギリス青年が、一枚のゴッホの絵をきっかけに訪れた南仏カマルグで、原因不明の高熱におそわれ動けなくなる。辺りにはフラミンゴが無数飛んでいた。気を失った後、助けられた家で不思議な話を聞くことになる。

第2次世界大戦の末期、南仏の田舎町カマルグにもナチスはやってきた。そこで何が起きたのか？ ……それは、フラミンゴと話ができる不思議な力を持つ少年とロマの少女の物語だった。

「キャパとゲルダ ふたりの戦場カメラマン」

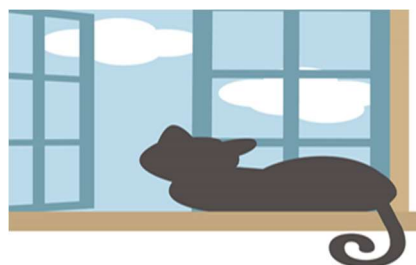
著：アロンソン、マーク・ブドーズ、マリナ



生きるために ふたりは戦場へ向かった。激動の1930年代、スペイン内戦を世界に伝えた二人のカメラマン、ロバート・キャパとゲルダ・タロー。カメラを武器に革命に身を投じた、若き二人の青春物語。

キャパはゲルダに写真を教え、ゲルダはキャパを戦場カメラマンとしてプロデュース。激動の1930年代、夢と理想に燃えカメラを武器に闘った若き二人の素顔とは？！

【図書委員おすすめの本】



「また同じ夢を見ていた」 著：住野 よる

小学生の菜乃花には、南さんとアバズレさんとおばあちゃんと黒猫の友達がいた。彼女にとっては学校の友達と遊ぶよりも三人のところへ黒猫と行くほうが楽しかった。

「幸せとは？」この言葉が、菜乃花と三人の大人を救う。

だれにでも変えたい過去がある。だからこそ、どの登場人物にも共感できる物語になっています。あなたにとって幸せとは何ですか？ぜひ読んでみてください。

「旅のラゴス」 著：筒井康隆

高度な文明を失う代わりに超能力を得た世界で、主人公ラゴスは一生をかけて旅をする。出会いと別れを繰り返しながら進むラゴスの行く末とは？「時をかける少女」の作者、筒井康隆さんが描く、爽やかで温かく、少し切ない物語。

主人公の長い旅を追いかけっていると、人生は旅なんだなあとしみじみ思われます。まるで自分も旅をしているかのような臨場感あふれる作品です。夜遅くなるまで課題や勉強を頑張った後に、ふと読みたくなる、そんな一冊です。……眠れなくなっちゃうけど！

